

スティーブン・フォスターのお気に入り
スティーブン・フォスター作曲/バスティン編曲

<目次>

草競馬	4
オールドブラックジョー	6
故郷の人々	8
老犬トレイ	10
金髪のジェニー	12
口ひげさえあれば	14
楽しいわが家	16
おおスザンナ	18
ケンタッキーの我が家	20
夢見る人	22
ある人は	24

<作曲家について>スティーブン・フォスター

スティーブン・コリンズ・フォスターは、ペンシルベニア州のルイスヴィル（現在のピッツバーグの周辺）で、10人中9番目の子供として1826年のアメリカの独立記念日、7月4日に生まれました。

幼い頃から音楽好きで、フルート（横笛）を独学で学び、10代で作曲を始めました。両親はそんな彼の才能に気付きましたが、本格的な音楽教育を彼に与えたわけではありませんでした。なぜなら、当時のアメリカで音楽は1人の男性が職業として暮らして行くのには適切ではないと考えられていたからでした。

1841年、フォスター一家はペンシルベニア州のアレゲニーという街へ引っ越します。スティーブンは5年間そこに暮らし、そこが彼にとって、作曲家としての活動の始まりになりました。1846年、彼は兄の会社の簿記係としてシンシナティーで働きました。そして、作曲家として生活出来るようになるまで熱心に働きました。

1848年に彼の代表作である「おおスザンナ」がヒットとなりました。この歌がヒットチャートに乗ると、彼は両親を説得し、作曲活動に専念するため、簿記係としての仕事を辞めたいと告げました。両親はスティーブンのために、家を改築し、階上の部屋を彼の仕事場としました。それをきっかけにスティーブンは両親のいるアレゲニーへ戻り、作曲に専念

することとなりました。

スティーブンは新曲のお披露目会で、ピッツバーグの名医の娘であるジェーン・マクダウェルと出会いました。その会で彼女は、ソプラノを、彼はテノールを歌いました。そして1850年7月24日、スティーブんとジェーンは結婚し、彼らの間にはフォスター待望の女の子、マリアンが生まれました。結婚してからの数年間、フォスターの作曲家としての人生においての円熟期となり、この時期に次々とヒット曲を生み出します。

1851年には「故郷の人々（スワニー河）」がクリスティー・ミンストレルズにより大ヒットとなりました。ミンストレルのショーでは、白人の歌手たちが、顔を黒く塗り、黒人のように歌ったり、踊ったりジョークを言ったりして多くのお客を喜ばせました。E. T. クリスティーはミンストレルショーでフォスターの曲をたくさん取り入れ、この頃スティーブン自身もたくさん給料をもらうようになりました。彼の作曲家としての人生は大成功のように思われました。

1860年、スティーブンのお母さんがこの世を去りました。母の死により、フォスターはつらい時を過ごし、作曲することが難しくなっていました。なんとか曲を高く買ってくれる出版社が見つかることを望み、彼は妻子とともにニューヨークへ移り住みました。ですが、彼はお金に無頓着で、給料以上に浪費したため、奥さんと子供は彼の元を去ってしまいました。そのうちお酒をたくさん飲むようになると、生活が荒れ、操縦不能になってしまいました。彼の死は、彼が38歳の時にやってきました。1864年1月13日に亡くなった時、彼は一文無しでした。

スティーブン・フォスターは、200以上の歌を作曲し、この世に残しました。そのほとんどが、自身で書いた歌詞付きのものでした。彼が残した数々の作品は、アメリカ民謡として後々に引き継がれると同時に、偉大な文化の起源となっています。